

令和7年度オンラインタウンミーティング懇談録

日時：令和7年9月6日（土） 10:00～11:30

場所：庁議室（Zoom）

参加者：市長 ほか 参加者8名

<懇談録>

○参加者1

はい、ありがとうございます。参加者1と申します。今日初めて参加させていただきました。私は3年前にですね、東京都内からつくばに移住してきました、今小学生の男の子2人育てているんですけども、なので、子供たちが安心安全に暮らせる、というところが一番メインに毎日考えているところになります。引っ越してきた当初からですね、つくば市すごく過ごしやすく気に入ってますが、市長にずっと伝えたいなと思っていたことがありまして、もうそれがですね本当に小中学校とか義務教育学園の体育館の空調設備ですね、クーラーの設置。よく言われているかと思うんですけど、やっぱりなかなか実現しなくてですね、毎日毎日子供たちが向き合っている問題になります。今6月から10月まで、本当に過酷な状況になっていて、それが9年間続くと思うと本当に可哀想な状況です。市民少年団とかスポーツ、部活動もですね体育館でやっていて、春日の体育館で私も見守りなどでいつも常駐するんですけども、本当に動くだけでも歩くだけでも結構な辛い状況が続いています。気分悪くしたり嘔吐してしまうような生徒もですね、すごく気を付けていてもやっぱり発生している状況が続いていて、本当に部活動だけではなくて、もう普通の教室もですね、暑い状況が続く中で、体育も、外でできないから体育館でとなるんですけども、体育館も辛い状況なので、活動ができず、後片付けとか準備の方法だけ学ぶとか、歩いてやるとかですね、本当に制限がかかっています。子供たちが帰って来てからですね、すごく熱中症のような症状になるようなことも多いので、本当に早急に対応していただきたいのと、春日に関して言えば、もう体育館だけでなく教室もですね、クーラーも設置率だけ見ると本当に良いかと思うんですが、昨年も今年もですね、教室が暑くて使えない状況が続いてます。特に去年は1年生から9年生までの1組全クラスがですね、空調が効かなくなって、他の教室に全て散り散りになって多目的室などで授業を行ってます。今年はですね、先生達が対策をしてくれて一つ教室をずれて設置をしてくださって2組だったところから1組で解消してくれているんですけども、それでも先日ですね、やはり2組だった2組の場所、

角から2部屋目ですね、空調が全て効きづらくなってしまって急遽、別棟のコンピュータ室ですとか、本当にもう学ぶような、ちょっとねいつもと違う状況での落ち着いた授業が発生していたりして日々ちょっと子供たちがですね、落ち着いた状況だったり、暑さに耐えながらの授業っていうのが進んでいますので、本当にその部分はもう早急に、命に関わってくるかと思うので対応していただきたいと思います。

●市長

はい、ありがとうございます。本当に子供たち、見守っている保護者の皆さんに厳しい思いをさせてしまって申し訳なく思っていますし、ちょっとこの3年連続で最高気温を更新ということで、私も実はずっと前からもっと早く進めなくちゃという話をしていたんですが。進めていきます。進めていきますというのは、今までは計画もなかったんですけども、これ国もですね、新たに補助金のメニューをようやく作ってくれて、これ全体でやると多分そのままやると40億とかの話に、もっとかな？なっていくんですけども、それを全国の自治体のエアコンの設置が急務だということを、色んな場所で訴えてきて、補助金メニューも作られましたので、これも活用しながら、できるだけ早急につけなくちゃいけないと思っています。通常工事をする場合というのは、設計の予算というのをつけて、設計で1年かかって、つけるのに1年かかっちゃったりするんですけども、これも、あとは市内の事業者さんで受けられる事業者さんが何社あるか、みたいなこともあるんですが、今それくらい具体的に計画を作っているところです。ですので、ちょっと来年の夏というのは物理的に間に合わないんですけど、予算をしっかりとして、極力早い段階で、多くの学校につけられるようにしないといけないと思っています。それが受けられる事業者さんの数との掛け合わせにはなってくるんですけども、本当にお話あったようにめちゃくちゃ暑いので。もう少し細かい話をすると、なんでこれがなかなか進められなかったかということ、今までは断熱工事をしないとイケないというルールだったんですね。そうするともう断熱工事をするだけでまた設計にかかって、みたいな話だったんですけども、国もさすがにその無理さに気付いて、後からでも良いと、窓にフィルムを貼ったりするだけでも良いというような形で、その基準をかなり緩和をしたので、これで今、今まで動けなかった全国の自治体が、東京都っていうのは別なんですけど、全く金額感が違う、東京都のとかと比べられてしまうのがなかなか我々大変なんですけど、そうでない他の自治体は国に対して、いやそんなこと言ったらつけられませんよというようなことでやってきたんですが、そういったものもようやく変化してきたので、できるだけ早くにですね。計画を多分お示しを、できれば年内くらいにはこういう風にやっていますというような発表をできるんじゃない

ないかなと思っていますので、できる限り早くつけたいなと思っています。というのが体育館の話で、すいません教室の話は、私の情報が足りてなくて、初めて聞いた話だったんですけれども、教室のエアコンが効いていないということですか？

○参加者 1

そうですね。私は春日学園なので、そんなに10年ちょっとくらいなんですけど創立で。先生によるとですね、空調の方式がエコなものを重視していて、かなり遠いところから、水を冷やしたものを運んで行って、それが屋上についているということで、なかなかその冷やすことができずに、また角部屋だと日当たりがすごくてということで、なかなか空調が効かないので、去年も30度以上ある教室で1日2日やっぱり過ごさなきゃいけないことがあって、というようなことで先生たちも教室をばらけさせるという対策と、業者さんを一応呼んでくださってはいるようなんですが、なかなかちょっと100%の解決にはならないんじゃないかなというところですね。

●市長

なるほど、ちょっと確認しますね。もうちょっと抜本的な対策が必要なら、それは別の形の工事をしなくちゃいけないと思います。就任してからエアコンについては、順次つけていったんですけど多分春日はもともとついていたのかな？

○参加者 1

はい、そうです。

●市長

就任前なんですけど、例えば秀峰筑波なんかも最先端の仕組みを入れますみたいなこと言って、結果として全然涼しくなかったりというようなこともあったりしたので、ちょっとこう不具合がやっぱり色々起きているので、とにかく冷やさないことにはしょうがない状況です。もちろん気候危機の対策は必要なんですけど、それは熱中症になるということとは全く違いますので、少し確認をしてどんな改善ができるのかとかできないのかとか、調べて一応御連絡あとでしたいと思いますので、メールアドレスとかはいただいているのかな？そこに連絡したいと思います。

○参加者 1

はい、よろしくお願いします。ありがとうございます。

○参加者 2

はい、ありがとうございます。ちょっと今ビデオがオンにできなくて困ってるんですけども。土地開発のあり方として、つくばにも森とか、農地とかいっぱいあるんですけども。つくばに限らず、そういうところをなくして、開発してく一方方向っていう感じなのかなと思っていて、どこか開発すると新しいところ、開発しやすいから、そこに綺麗なまちができて、寂れていくところはなくなっていったら綺麗なまちと寂れたところとが増えていったら、森とか農地は減っていくっていう一方通行なのは、なんか将来的にどうなのかなって思ってしまってこれ解決方法とかはないと思うんで、大変だなとは思ってますけども、そういうところがうまく動くようなことになったらいいなって。森とか林とか近隣にもあるんですけども、そういうのが減る一方なのはどうかかなと思っているんですけども。自分並木の近くにいるんですけど、ポツポツと林みたいなのがあって、多分民有地なのかなと思うんですけども。そういうところも減っていくんですね。なんで減るんですかって聞いたら、そこに白鷺がすごくたくさん飛んできて、実際近くに行くととっても地域の動物園みたいに鳴いていて、糞とかのにおいも大変みたいなんですね。それ、どうにかならないんですかって、ちょっと一つだけ聞いたので本当なのかどうか分かんないんですけど、市に相談したら、これは動物の保護の関係でどうにもできませんって言われて、じゃあもうその林切っちゃいますっていうことで切っちゃったとかって言って、こういったことも含めて、つくばってまだ農村とか林とかいっぱいあるんだけど、それがどんどんなくなっていったらとか、今の鳥みたいな問題とか、答えがない問題で申し訳ないんですけども。もっとうまくいって、つくばの特徴ってやっぱそういうところもたくさん残されているところがあると思いますので、上手くいったらいいなって思ってます。すみません、まとまりのないお話で。

●市長

とても大事な視点で、ちょっとまず、白鷺のお話からしたいと思いますけれども。多分職員は、何もできないとは言ってはいないと思っている、実は白鷺の糞害、におい、これすごく市役所に問合せが来るんですね。お話あったように、殺すわけにはいかないんですけども、何をするかというと、春と冬に追い払い作業というのをするんですね。その手前の段階としては、大きな音を鳴らして散らすっていうようなことを、やってるんですけども、それをやっても結局、少し離れたところの、また木に移っていったらうだけで今度そっちがすごい被害に

なっちゃうというので、鷹匠にお願いをして、鷹での追い払いが今度効果があるということだったので、鷹でも、やっています。その巣落としての時期、今年もです、去年かな、その3月とか4月の巣を作る時期に、巣落としなんかもやって、結果として実は少し数が減ったりはしているんですね。ただ、やっぱり莫大な数がいて、すみついてしまっているんですけども、その鷹の追い払い始めてからは、半数ぐらいまでは下がりました、数としては。だから、効果はあると思うのでちょっと粘り強く、これをやっていきたいなと思っていて。お話あったように、白鷺の被害があるから全部切っちゃうっていうのは、私は嫌だなと思ってます。嫌だなっていうのはとても感情的な話なんですけれども、お話あるように、都市の近くにある森林というのはすごく大事なものだと思っているので、何とか今、鷹の効果、結構出てきていますので、多分職員は、おそらく、何もできませんっていうのはその殺せはしませんと、打ち落としはできませんですけども、対策としてはあの手この手、いろいろ専門家のアドバイスももらいながらやっていて、ちょっとずつ今、減少傾向にあるというようなことがまず白鷺ですね。その上で、今参加者2さんからいただいた森を守るというのは、ものすごく大事にしている、さっき、時間がなかったのでお話しなかったんですけども、森林バンクという制度をつくば市で作りました。これまさに今お話いただいたように、都市の森。でも所有者の方は、高齢化していたりして管理ができないで、荒れ放題になっちゃっているんですね。それを、使いたい人と、マッチングさせる仕組みを作ったんです。これ、画面映せますか、ここに。これは都市、森林を使いたい方が、つくば市の森林バンクで検索していただくと、その登録一覧というのがあって、これまだ今年から始めた事業なんですけども、結構たくさんの森林を登録してもらっていて、それをもうマッチングで利用始めた方もいます。全国でも多分市民とその所有者をマッチングしてる制度って、日本で初めてだと思うんですけども。これをうまく広げていくための説明会なども行っていて結構好評なので、そういうものを通じて例えばキャンプをそこでしたいとかですね、そこを使って休日過ごす場所を作りたいとかってというような仕組みで、最初に使うための下草刈りとかの応援をする人とか、いろんなパターンを作っているんですけども。そういう制度がありますので、ぜひ、これを広げることによってその都市の森林がもう少し守られていけるんじゃないかと。これ、出ましたかね。（森林バンクのHP画面を参加者に共有） こういうページがあって、今説明会とか、そこにありますけれども、ちょっとクリックできますかね。ちょうどこれも、今終わっちゃったのかな。9月にも、活用とか森林バンク自体の説明会とか結構やっていて、森林バンクの登録一覧ってどこクリックしてもらえますか。右上のバーにあります。その下に行くと。こうやってずらっと並べているんです。ここを使いたいという人と、地権者の方がマッチすればいいような制度になってい

て、私もそういうとこ一個借りたいなと思って、私も梅園に住んでますので、並木大角豆あたり出たら、登録したいなと思ってるんですけど。そういう取組をやっていますので、都市の森林や都市農地というのはとても価値があるものだと思います。もう一つ、少し補足というか、派生して話をすると、まさに新しい開発エリアだけが発展していくというのは、よくないと思っていますので、ちょっとこの森林バンクを終えてですね、周辺市街地の取組の御紹介をしたいんですけども、ちょっと周辺市街地のところ出せますか。つくばって、6か町村が合併してできた町なんですね。これもさっき話をしなかったんですけども。当然その町や村には、商店街があり、町役場・村役場があり、集積する場所があったんですけども。その中で、例えば、こういうですね、素敵な街並みが各地区に残っていたり、お祭りが残っていたりですね、するわけなんです。その地域の皆さんに集まっていただいて、今その周辺の8地区、昔の市街地、昔というか今も市街地なんです、市街化区域というところなんです。地域の皆さんによるまちづくりを進めています。地域が主体となったものを行政として全面的にバックアップをしていくと。さらに、さっきの私のマニフェスト土台の15分都市というのがそれに絡んでいるんですけども、この8市街地は15分の徒歩で暮らせるまちにしようというヴィジョンを描いています。で、15分で暮らせるまちって何かというと、15分で行政の機能であったり金融の機能であったり、クリニックの機能であったり買い物の機能、そういうものが揃ってるかどうかを全部リストアップをしてですね、物理的に、15分で歩けるかどうかというのをリストアップして、今地域の皆さんと、例えば上郷地区には、こういう機能はないんですよみたいな、どうしましようねみたいな、そしたらあそこにこうしたらいいよみたいな話合いをしています。ですので、まさにその、ただただ寂れていく一方にしないということがすごく大事だと思っていまして、これも私就任した頃はそんな面倒くさいこと言わないで市でやってくれよと、俺達ずっと置いてきぼりなんだよ、みたいなことをたくさん言われたんですけども。今はもう、その地域のいろんな取組が進んで。ちょっとイベントとかってどんなんですかね。（事務局により「周辺市街地のまちづくり」のHP画面を参加者に共有）下に行くと、チャレンジショップなんかも作っていたりするんですけども。これは吉沼地区でやって、あと北条地区でもやったりしています。それからイベントでいうと、結構ですね、各地区でいろんなことをやっているんですね。ですので、こういったものを通じて、新しいエリアだけが綺麗になるんじゃなくて昔からある素敵なエリアを、より素敵なまま持続可能にしていこうというようなことを、取組をしています。ちょっと長くなりましたが、今、参加者2さんからいただいたお話というのは、本当におっしゃるとおりなものだと思っていまして、まさにその方向でまちを進めていって、ただただなんかこう、TXの駅前だけが発展し

て、あとはもう超コンパクトシティでみんな引っ越して来てみたいなものではない。私は、遠心力をまちに働かせると、真ん中から外側に広がっていくような流れというのを、今のまちで目指して進めています。長くなりました。お答えになっているでしょうか。

○参加者 2

ありがとうございます。お話の中で、市民の管理もできることがあるよねっておっしゃられているような気もしまして、そこは頑張りたいと思います、頑張るって変ですけど、意識していきたいと思います。森とかが減って住宅地ばかりになってくっという。人口はそんなに急に増えていかないの、本当は逆もあっていいんじゃないのかって気もして、でもそれは行政にできることじゃないかもしれないんですけども、全体として土地の使い方とか、うまくいったらいいなと願っています。ありがとうございました。

●市長

確かに行政がすることとできないこともあるんですけども、最近、より進めていくと、この間フランスの自治体の人からいろいろ話を聞いたんですけど、もうアスファルトを剥がして土にするみたいなね、そういうことまでやり始めてるようなところがありますので、とても全部を土にするわけにはいかないんですけども、部分部分ですね、それくらいの気持ちじゃないと、とてもそれは、大きなね、気候危機のことも含めて、人口を縮小させるわけではないけれども、必要なところにもっと緑を増やしていくということが私が掲げてるグリーンシフトで、そこに投資をしていくという流れを作っていきたいと思ってます。一生懸命頑張ります。

○参加者 2

それはとてもありがたい取組だと思います。ありがとうございます。

○参加者 3

いつも辛口ですみません。気候危機、まさにその話を今日もしたいと思ってきました。まず最初に、ちょっと市長に軽くお伺いしたいことがあって、それは今5か年の計画が動いていて、今年は最終年度、来年度から次の計画が動くということで今、来年度の計画を立てているところなわけですけども、その段階でさあ立てようというところで、市の中であるいは市長の中で、反省点とか現状の計画についてですね、そういったことの整理とかあるいは指示出しとか、そういつ

たことというのは行われているのでしょうか。

●市長

計画を作るときはその反省とか課題感がどこかということも含めて、まず、審議会の委員の皆さん方にディスカッションをしてもらいます。そこで、ここができてるよね、ここできてないよねっていうのを整理し、当然私もそれ全部見ますけれども、今そういうプロセスをですね、していくことになりますので、その中で、私はよりどういうところに踏み込んでいけるかということで、そのグリーンシフトについてのことはきちんと進めていこうという話はもちろんしていますし、私が言っているグリーンシフト、やっぱりその緑から、要は、気候危機の緩和に資することを仕事にできる人を増やしていこうということが、私が今、特に力を入れてる部分ですので、そういったことは、計画にももちろん入れていきたいなということを話しています。

○参加者 3

まず心強い話をありがとうございます。ちなみに私もちょっと前から、市長にお話したことあったかどうか知りませんが覚えてませんが、ロボットの林業、利用とかね。そういうせっかくつくばこれだけロボットにいろいろ力を入れている企業さんもあるので、林業支援のロボットなどがあると、今のようなところにも、人が関わりやすくなっていくと思うので、そういったこともあるといいなとは思っているところです。その上でちょっと話を元に戻すんですけども、私このあいだ、多分今環境審議会の方で、委員に落ちてしまったんですが、それで3回目の委員会には、分科会には傍聴してきました。もうその時点では、ほぼその反省に当たる部分はなくて、だから行われたのか行われてこなかったのかはわからないんですけども。もうそれは終わっててですね、もう次の計画どうしようかというところで、もう動き出しているんですが、そこで、そういう意味でちょっと非常に危惧した点がありますので、そこをまずお伝えしたいと思います。何を危惧してるかという、現計画でやっぱりうまくいかなかったところ、あると思うんですけども、そこがほとんど見直されていないような印象を受けます。それで、現計画に加えて、気候市民会議で得られた提言ですね、これを施策化したものが付け加わるような、大きい形になろうとしているんですが、これで、例えば人が増えなければ、環境政策課さん等々の人が増えなければ、お金が増えなければ、単に広がるだけで、質が低下してしまいますよね。そういったところとかがすごく、心配になってくるんですよ。例えばどういった点で問題になってるかっていうと、あんまりぐだぐだ言っても仕方がないんで、簡潔な簡単な例を言いますと、教育です。やっぱり教育ってものすごく大事、ところが地球温暖化に関しては、SDGs はとか教えてるんですけども地球温暖化に関しては授

業では、ほぼほぼ取り入れられてない。それがおそらく今後も続くんですね。なぜかという、今回その指標に上がってるものが、エコクッキングの回数とかなんですよ。これが、うまくできてますか、教育やらなきやいけませんねって。さあそれで、うまくできてるこの指標は何しましょうか。エコクッキングの回数とか、あと動画の再生回数これは動画が良くなれば、まだいいんですが、前回のよう動画だとひどいんですけれども、そういった、何か直接的に教育を良くするようなものになってない。やっぱ地球温暖化ってまず地球温暖化そのものがわかってから、じゃあどうしようか、そこがやっぱり本当の、ど真ん中というかそこがなければ、いくら最初からエコクッキング教えようが生物多様性教えようが、真ん中なければ。やっぱりまず真ん中を知った上で、エコクッキングなり、生物多様性なり、環境、周りの環境なり、そういうところだと思うので、この点を何とかしていただきたい。これまで、私も進捗管理の委員をさせていただいてましたけれども、そこから出てくるのも、教育委員会がうんと言わない。そんなところで、結局反対で、他の市議会の方に聞いても、市議さんなんか聞いても、先生忙しいから、いや忙しいのはそれは関係、忙しいから要するに勉強できないってわけですよ。それは、怠慢といえば怠慢だし、できないんだったら僕一応これプロなんで、例えばこういったようなプロを呼んでくるとかですね、そこで、動画作らせるとか、そういったことで、いくらでも対応のことはできると思うので、そこはまず問題。あと問題として現状の問題であるのはつながりという先ほど市長おっしゃってたんですけれども、つながりがないのが二つ目の問題で、研究機関であるとか、企業とかの連携がかなりなくて、市役所の中でできることに、かなりとどまってしまっているのが、現状、そういったような、現在の問題点が、このまま残った中で残りつつ、やることだけが増える。そういうような計画が膨らむ、そこがかなり心配しているところです。とりあえず危惧を感じました。

●市長

おっしゃることはとても大事で、エコクッキングが最優先かと言われると多分そうじゃないと思うんですよ。まさに、ちょうどですね、その話を先週担当課ともして、ちょうど江守正多先生とちょっとディスカッションを、先週、もうちょっと前かな、させてもらったんですね。江守先生っていうのは、御存知ない方のために、結構今、日本の気候危機の解説のテレビなんかによく出てくる、環境研、国環研だったんですけど、今東大に行かれてますけど、の先生で、要するに何を僕がお願いしたかという、我々が、市役所が動画作ってもかたくなっちゃったりするし、分からないので、先生の動画使わせてもらっていいですかという相談をしたんです、教育のために。それは特にどの動画かっていうと、江守先生が、Jリーグの、Jリーガーのしかもトップクラスのですね、小野伸二とかで

すね、内田とか、そういう、あと中村憲剛だったかな、その3人と、気候危機について、江守先生が解説するみたいな。まさに地球温暖化って何なの？から始まっている動画があって、そういうものであれば、先生も大変じゃないし学校の先生も。子供たちは、まず見るし。ということで、使用許可を江守先生から今いただいてですね、それからいろんな解説の動画も含めて、やっていこうと思って、それはまさに今参加者3さんおっしゃったように、子供が、地球温暖化って何だろうとか、何が起きてるんだろうっていうことがわからないまま、なんとなくね、SDGs ももちろん大事ですし、つくば力入れてますけど、この根源的なものもしっかりやっていかないといけないよねという、ことの上で行動するか、何かとりあえず生物多様性だから生物多様性っていうこととかね、森を大事にとかっていうことからの、その土台を理解する上で、まずはその基礎理解が、大事だよなと、つくばがどれだけ脱炭素先行地域とか言っても、そもそも何が起きてるのという意味で、めちゃくちゃいい動画なので、これを使ってこれからですね、学校教育なんかでもやってもらおうと思うし、先生忙しいのはわかるんですけど、忙しいなら卒業式の練習とかにすごい時間かけるんじゃないくて、そういうところに時間をかけたらいいと思っていてですね、そういうことを、これから教育の分野でも入れていこうと思ってますし、ちょっと私もその、環境の、今度の計画の更新でも、指標についてはきちんと、具体的に見ていこうと思っていますので、いただいた御意見、大事にしたいと思いますし、つながりという部分で言っても確かにおっしゃるとおりの部分、今もそういう部分は拭えないですけど、少しずつというか、特に脱炭素先行地域の申請のプロセスで、いろんな事業者と、連携をする枠組みというのは、ようやくできました。これはまだつくば駅の周辺がベースですけども、そこにそれぞれですね、そのスーパーシティのグリーン分科会というのを作りましたので、そこに加わってくださっている先生方などと一緒に、まさにその、もっと連携してできることあるじゃんっていうところを、このグリーン分科会も新しく立ち上げましたので、対応していきたいなと思っています。やることすごくたくさんあるんですけども。本当に、本当に大きな問題というか危機的な問題だと思っていますので、さっきのエアコンの話もありますけれども、我々ができるアクションをするということに力を入れていきたいと思っていますので、引き続き辛口の御意見をたくさん。

○参加者3

ありがとうございます。江守さんの動画を使われるのは非常にいいと思います。もう1つ言うと、江守さんの動画を先生も見て、多分わからないところとか質問されて困ったりすることもあると思うんですよ。そういうときは気象研なり環境研なりせつかくあるんですから、そこに質問を投げるような感じに

してくだされば気象研では僕、全部多分対応するので。お願いして、それはどんどん依頼していいと思うんですよね、せっかく同じ市の中でやってるんですから、そういうそれぐらい活かさないともったいないと思うので、ぜひそこは甘えてください。それとその甘えがないんですよね、つくば市はどうも。私はそういう印象を強く持ってます。

●市長

多分、学校の先生たちも何か、やっぱり研究所ってハードルがあるので、何かこう、そんなアクセスしていいかどうかみたいなのところがあるんだと思うんですよね、そういう習慣がないので。だけど、そういうのがね、本当あたり前になればいいし、つくばの STEAM コンパスというのはまさに研究者の皆さんに何でも質問できるよというような形で子供たちが質問できる形はつくっているんですけれども。ちょっと併せて伝えておきます。

○参加者 3

はいぜひぜひ。

●市長

対応してくれるよって伝えておきます。

○参加者 3

はい。対応します。ちなみに今年は、先ほど3年間すごく暑い年が続いてきたって話なんですけど、来年どうなるかに関しては、はっきり言ってわかりません。最新の調査では、今年がすごく異常過ぎたっていう、温暖化してても異常過ぎたっていう研究もあるんですが、そうでもないんじゃないのという反対意見もあって、意見が割れてるので、また同じような年が続くかもしれないし、そうでもないかもしれません。そこはちょっと。

●市長

今年の伸びは、やばかったですよね。

○参加者 3

6月7月が特にまず暑かった。これはやっぱり学校がある時期、6月7月と学校がある時期なので、先ほどの話と、すごく関連するかなと思いました。

●市長

ありがとうございます。はい、頑張ります。本当に大事。

○参加者 3

ありがとうございました。

○参加者 4

いつも本当にお勤めありがとうございます。本当にすごくこう、市民全体のこと、いつも考えてくれながらやってくださっているのが伝わってきて、本当に感謝しかないです。その上でちょっと、自分なりの、やっぱりなんですかね、いろいろ自分も自分なりにどうしたら社会が良くなるのかとか、哲学したりいろいろ考えたりはしてるんですけど、いわゆるその地球温暖化とか、高齢者の孤独死だとか何だとか、もろもろの社会問題の、結構な根底に、やっぱりその人の意識の分断というか、お金をいっぱいゲットする先に、やっぱり、幸せがあるんじゃないか的な空気感が、人の分断を生んでるのかななんてのは結構、どうしても思ってしまうところで。やっぱり何か本当に調和というかちょっと哲学的な話にはなってしまうんですけども、本当にでもシンプルに、やっぱり、感謝とか愛とかっていうところをちゃんと大切にすると暮らしとか、そういう人になって、そういう市にね、感謝とか愛とかがやっぱりなんか溢れてると、多くの人が心地いいんじゃないかなとか。概念的なんですけど。そうなったときに、その感謝100%で生きる担当大臣みたいな制度ができたらいいなと常に思っていて、その本当に今何でも生きるためにお金が必要っていう文脈に巻き込まれると、自分のその能力をお金にどう変えようっていう思考になっちゃうときがあるんですけど。もう本当にとにかく市から言われたら何でもやります、何でも、週に5日ぐらいボランティアで市から頼まれたこと何でも、一生懸命無料で働きます。その代わり、なんかちょっと税金とか免除してもらえませんかとか、簡易的なところでいいので、ちょっと住まい、なんか住まわせてもらえませんかみたいな。でも食べ物はもうそこら辺の雑草とかを自分で栽培したりして何とかするんで。本当に、こうただ、無償で市の仕事を一生懸命。お金にベース、モチベーションに動かないとか、自分の中の感謝をエネルギーに常に動かしてもらえたら、そういう制度があつたら嬉しいなって思うし、結構自分の周りでも、何かこう、資本主義に限界を感じてて、そのルールだと生きづらくて、でも人にもっとただ貢献したくてみたいな人が結構いて、そういう感謝マンみたいな制度が、つくれないかなっていうのを常に、要望したいなというふうに思っております。

●市長

参加者4さんのね、その愛と感謝のメッセージって、いつもとても素敵だなと思って伺ってるんですが。今のお話でいくと、ちょっと近いなと思ったのは、少し違うんですけどもお金になっちゃうので、ベーシックインカムという制度が、これ、どこでもちゃんとやられてはいないんですけども。若干試行実験的にあって、基本的に暮らしていくお金というのは全部、もう支給されますよと。なので、皆さん、好きなことをやって暮らしてくださいっていうような発想で、すごく小規模な実験とかは行われていて、例えば、そういう人が怠けるかっていうと、実はそうでもないということはわかっていて、それこそ人のための何か仕事をしたり、あるいは自分の、雇用訓練的なもので、いろいろ自分を高めることに使ったり、他の人に貢献するなんていうことがあるので、確かにお金が充足を、っていうかお金の心配がない状況でいると、人は別にわがままになるわけではなくて、何か他者に対しての働きかけもしていくようになるというようなことは、一部の実験ではですね。確認はされているんだと思うんです。ただ、ベーシックインカムってやるとなると、全員が一斉にやらないと成立しなくてですね、それはなぜかという、例えばつくば市でベーシックインカムを導入しますという、全国からつくば市にワープと来ることになるわけですよ。あるいは海外からも、つくばに引っ越してくることになるかもしれないし、要するに、社会の一部だけベーシックインカムというのでは、全体としては、機能しないので、そうなってくるとなかなかこれは制度的には導入が難しいかなというようなことがあるんですね。ただ、参加者4さんがおっしゃるような、感謝で自分が貢献して働いていくというような、生きていくというような、アプローチってすごくあると思いますし、今も、市でもいろんなね、例えばさっきの森林バンクなんかでも、サポーターがあつてですね、純粋に自分は直接借りなくても色々下草刈りとか全部やるよみたいなお手伝いなんかを募集したりしていて、そういう人はもう、無償なんですけれども、でも、森林のオーナーからね、その作業の後に、ちょっと食事御馳走してもらったりとか、つながって、一緒に、それこそ焚火でもしたりとか、そんな中で幸せに暮らしていくので、完全にその資本主義の経済から離れなくても、部分的にそういう、互酬性と文化人類学とか経済人類学でいったりしますけれども、お互いのものを提供し合うような概念というのは、あると思っていますし、これはカール・ポランニーという経済人類学者が言った言葉ですけども、本来商品ではないものを商品として扱っていることの限界、というのが出てきていて、例えば労働というのは、本来商品じゃないのに商品として扱われてしまってるっていうこの擬制商品、擬制っていうのは似たようなという意味ですけども、擬制商品という概念で、土地とか労働というものが使われていることは、結構不幸の源なんじゃないかみたいなことを言っていますので、それを変えていくアプローチというのが多分必要で、それが実はつくば市でいう

と労働者協同組合というもののアプローチではあるんですけども、ちょっと長くなるのでこの程度にしておきますが、はいぜひこれからいろんな場所で御活躍いただければ嬉しいなと。ありがとうございました。

○参加者 4

いつもありがとうございます。

○参加者 5

私もうずっと荃崎に住んでまして、もう 40 数年になるんですけども、どうもちょうどそのつくば市に後から編入したっていうこともあって、若干つくば市の発展に比べて、ちょっとこう置いてかれてる感があるもんですから、その辺ちょっとこの間の 6 月に、高野市議が主催で、荃崎に関するそういうシンポジウムを開催したときがあって、そこに参加させていただいたんですけども、どうもそのバイパスができるけども、そのほかどういうことは、なんかあんまり発展性が感じられなかったっていうところがあったので、荃崎っていう場所が自然も多いので、そういった自然に関するアクティビティとか、そういったものを振興策として取り組んでいただけるといいのかなっていうことがありまして、その辺について、何かありますでしょうか。

●市長

はい、ありがとうございます。めちゃくちゃ荃崎でいろんな取組はしてはしまして、確かに私就任した頃、本当にこっちは置いてきぼりだよというのをたくさん言われました。言われたので、荃崎にいろんな投資をしまして、本当に、少しずつ説明します。例えば荃崎庁舎跡地もほったらかしだったんですけども、ここに、地域の御要望を受けてやっぱりちゃんと買い物ができる場所にしたいというので、誘致をお願いしてウエルシアが来たんです。ウエルシア、ただのウエルシアじゃなくて、食品を増やして欲しいという声たくさんあったので、個別に交渉して食品を増やしてもらったりとかですね、それからその隣の保健センターも、もう解体予定だったんですけども、地域の皆さんからの御要望を受けたので、第 2 交流センター的に使えるようにする場所を、今、工事を進めているところなんですね。これも、通常そんなものは作らないんですけども、やっぱり荃崎の皆さんの熱いお声だったので、やっていくということ。それから、荃崎老人福祉センターという場所があってこれもずっと放置されていってお風呂も壊れちゃったので、お風呂が、もう潰そうかという話もあったんですけど、やっぱりお風呂大事なので、地域の皆さんにとって。大事な割に使われてなかったの

で、今これもしリニューアル工事をして、来年オープンするんですけども、ちゃんと男女のお風呂分けてですね、時間も延ばして、地域の人は何もなくともそのお風呂に来てですね、ゆっくり過ごせるような場所をつくっていく計画です。それから荃崎に給食レストランという、これ全国的にもほとんど事例がない、子供たちが食べる給食を、一緒に地域の皆さんが食べられる場所というのを、今、計画を作っているところです。これは荃崎第二小の隣にあった場所に建てて子供たちは昼休みそこに食べに来ると。地域の皆さんも同じメニューをそこで食べられるというようなことで、そうすることによって地域の皆さんが、たまに子供たちと一緒にですね、いつも1人で食べていたり、高齢者の御夫婦だけで食べていたりするので、そういうようなことが、改善できるようにですね、したいなと思って、新しいチャレンジなんですけれども、取組を進めているところです。それから、高見原では先ほどの地区の協議会を作ってもらってしまして、ここでは、高見原のお祭りの復活などが始まっていて、いろんな集まりをですね、この協議会をきっかけにやって当然市としても支援をしています。など、もろもろやっている中での自然の部分も、まさにおっしゃるとおりすごく荃崎のポテンシャル、あるところだと思ってしまして、今、例えば六斗の森については、いろいろ施設が古かったりしたのをかなり改修をしたり、アメニティ棟（※サニタリー棟）というのを作って、かなり好評なんですけれども、これスノーピークという会社に監修してもらったんですが、たくさん利用されるようになっていきます。さらにここから先が大事で、牛久沼で、やっぱり荃崎の大きな可能性だと思っていますので、今牛久沼のアクティビティを、水の部分のアクティビティをできるような取組を、まずイベントベースで、数回やりました。カヌー体験をして、そのあと六斗の森で過ごすことができるんですけども。申込あつという間にですね、なんか5倍か何かになっちゃって、抽選にしたんですけども、それぐらい人気のアクティビティですのでまさに参加者5さんがお話いただいたように、自然を生かしたアクティビティは、すごくニーズがあると思いますので、できれば牛久沼に、何かこのアクティビティ拠点のようなものを作りたいなと思って、今、いるところです。例えばそこにカヌーとか置いておいたりして、いろんな活動ができるような場所と考えていたんですが、そしたらやっぱり何度かやっていく中でどうも採算性が、カヌーとかをやる事業者さん取れそうだということなんで多分これから定期的にやっていけるようになるんじゃないかと思っていますが、ちょっと難しいのは、どうしても牛久沼って、龍ヶ崎市の持ち物なんです水辺は。なので、そのあたりの調整が少し大変なんですけれども、私牛久沼の活用の協議会というのにも、周辺の市町で作っていますのでそこでも、いろんな提案をしています。あわせて、これは個人的な趣味も含めてなんだけど、自転車もですね、ぐるっと1周できるようにしたいなと思っていて、しかもそれも舗装路とか

じゃなくて、今マウンテンバイクとかですね、グラベルというジャンルですけども、少し太いタイヤで走り回れるようなものがあるので、そういうのだったらお金もかからず自然もアスファルトにしないですね、ロードバイクだとアスファルトにしないでいいんですけど。今の自然を満喫できるような形でのアプローチというのができるんじゃないかと。その牛久沼の活用は、しっかりやっていきたいし、今泊崎にある場所は、これも市で、地元の皆さんの要望を受けて、眺めがいいので、そこに、いろいろ憩いの場になるような投資もしたりとか、いろいろ進めていまして、私も茎崎南の玄関口として、めっちゃくちゃ、価値ある場所だと思ってますので、これからですね、発展をしていけるように。（事務局によりカヌー体験の画面を参加者に共有）今カヌー体験が出てますね。「水辺も陸も牛久沼で大冒険」ということで、まだ募集中だねこれはね、これ今年ですね。今度もまたやりますので。これカヌーをやって、火おこし体験してですね。レクリエーションを入れ替わりでやるというようなことで、とても好評を博していますので、こういうことを通じて、初めて茎崎に来たっていう人がたくさんいるので、また魅力を知ってもらいたいなあとということで、他にもいろいろあるんですがこれ以上話すと、さすがに長くなりますので、一旦こんなところで。茎崎めっちゃくちゃ頑張っていて、実は他の地区から最近茎崎の投資多すぎないかと、議員さんたちなんかから言われているようなところもありますので、高野さんにちょっと私からもよく話しておきます。

○参加者 5

ありがとうございます。あと一点、10 秒だけでよろしいでしょうか。すいません、今自然のことでちょっとアクティビティってあったんですけども、今も多分、今年も始まったと思うんですけど、岐阜県で森フェスっていうそういう自然のアクティビティを行ってるイベントが多分今年も始まっていると思うんですけど、去年私参加してすごくよかったので、そういうのも何か参考にさせていただけるといいのかなと思いますんで。

●市長

ありがとうございます。実はですね、岐阜の飛騨市が、岐阜ってもちろん森林面積が多くて、実は私も先日美濃加茂市というところに行ってきて、いろいろ木の取組を見てきたんですけども、飛騨市が作ったですね、会社と連携をしてさっきの森林バンクの制度なんかも作っていて、岐阜はすごい御縁がありますので、ちょっとその森フェスは行ったことありませんけど、御提案いただいたのでもし担当が行ければですね、案内してみてもいいかなと思います。岐阜のどこでやってる、県内各地でやるんですね、これはね。

○参加者 5

そうですね。私がたまたま行ったのは高山市の久々野というところでやっているとすけども。

●市長

本当に岐阜、美濃加茂では、結構森林の活用の、例えば子供たちがそこで木を使って何か作業してそれを自分で天板を作るとかね機の、なんていうのをやったりしていてすごく素敵だなと思ったので、つくば市のゆかりの森という豊里にあるところでは、そんな木工関係が全部できるような設備を整えるとか思ってるんですけど、林業っていうような林業がつくばにはないんですが、都市の森林の活用という意味では、いろいろな可能性があると思いますので、ちょっと案内をしてみたいと、ありがとうございます。

○参加者 5

はい。ありがとうございます。聞いて安心しました。ありがとうございました。

○参加者 6

つくば市松代に住んでおります参加者 6 と申します。今日はですね、生活支援体制づくりについてちょっとお聞きしたいと思っております、今我々、松代というところの街の成り立ちが非常にこう、ぼっこんぼっこん住宅が増えてきたというような地域で、昔からの伝統とかその辺のないような地区でございまして、そこでまずつながりを作ろうということで我々松代ぷらっとという、ぷらっと寄っていただこう、ということで松代交流センターに月 1 回集まってやっておるんですが、まず最初はここにどういう人たちが住んでいるかということの、お互い顔を知り合おうということで、早 1 年半くらいそういうことをして過ごしてきたんですけども、なかなかその生活支援をそういう形で具体的に進めていくかというようなことについてはまだそこまで議論が進んでないというのが現状なんです。そういう意味でそのセンターの方に、交流センターの方をお願いしたいのは、地域のいわゆる交流センターを使っている地域の皆さん、それから住んでいる皆さん等に 1 回集まっていただいて、自分たちの地域の課題は何だろうとかというような話合いを持つような場を作ってもらおうじゃないかということで今そのレベルにしかいってないんですけど、そういう形の中でまず知り合うということで知り合った後それをどういう形にしていくかということになっていくと、一方的に住民が行政にお願いするばかりじゃなしに、住民も

できることもやってこうという、お互いの力を出し合いながら、協働といいますかね、そういう体制を作っていくのが良いんじゃないかな。そのためにはお互いが支え合う、サポートし合う、というようなことになってくることが大切だろうと思ってますんで、その辺の進め方をですね、つくばは広いですから、全般的に全部をやっていくということじゃなしに、少なくとも中学校区、交流センター地区の、ちょうど16か所か17か所かあると思いますけれど、そこで、それぞれ自分たちの地域の課題は何かということ共有することから始めようじゃないかというようなことを考えておりまして。そういうことを進めることにおいて、行政側のバックアップをお願いしたいなと、そんな風に考えております。よろしくお願いします。

●市長

まさに、これからの地域はそういうことをやっていただくことが、鍵だと思っていまして、それはだから皆さん自身のつながりがあることが一番大事だと思っていまして、一方でお祭りがなくなったり子供会がなくなったり、何がなくなってるって、どっちかって言うと減っていく方だと思うんですね、いろんなものが。なので、多分その松代では、社協の助成金使っていただいているんじゃないかと。

○参加者6

はい、そうです。

●市長

全部市では、なかなかあれなんですけど、社協にそういう部分、地域のコミュニティづくりというのは、今社協と連携して、社協の会長松本副市長ですので、やっていますけれど。本当に行政としても、そういう場所づくりをどう広げていくかっていうのはすごい大きな難しいテーマであって、なかなか行政側からつくりませんか？ってやっても結構うまくいかなくてですね。2層の協議体とかもそうなんですけど、それをどう地域の核となる皆さんにアクセスをしてですね作っていくか、参加者6さんのような方がいる場所はいいんですが、他の場所でどんな風にしていくのがいいかなあというのが、幾分悩ましいところですけど、逆にどうしたら良いですかね。

○参加者6

やはり、我々のそういう生活支援体制ということを大きく打ち出したらおそらく皆さんそっぽを向いちゃうんじゃないかなということで、今のところお互いまずどういう人たちが住んでどんなことになったら関心持ってるかなという

ことで、色んなイベント、ちっちゃなイベントからまず意識し合いながら、今と
りあえず顔を知るという段階なんですけれど、そういうことが特に新しくでき
た街というのは必要なんじゃないかな。荃崎とかいわゆる筑波山の麓の方の
方々というのは昔からの流れとか区会とかそういうもんが仕切っておられる場
面もあるんで、ベースがあるんです。松代は自治会とかはあるんですけども、
つながりが全然ないというのが現状ですので、まずそのつながりづくりをどう
するかというのが第一歩かなと考えてます。

●市長

はい、ちょっと社協にも問題意識は共有しておきますので、そういう中でおっ
しゃるように、あんまり、なんていうんでしょう、難しいことになると皆嫌にな
っちゃうんで、それはやっぱり2層の協議体の時も、はい。なんかもうちょっと
皆が参加して楽しいようなもんじゃないと、難しい会議みたいなのになっちゃう
と、なんか全然上手くいかないなって感じはしているので、ぷらっと。

○参加者6

この間、ケーナをやってもらってる人たちに来てケーナを吹いてもらって、そ
れに合わせてちょうど8月なんで、戦争体験いわゆる高齢者、結構まだ小さい小
学校とかそんな辺で経験された、中学とか、人もなかにはおられますんで、どう
だったのというようなことを話合いするとかですね、そういうレベルで、今、あ
ああの人そういうことあったんか、というようなことをやっていると。

●市長

分かりました、ありがとうございます。ちょっとなかなか仕掛け方は難しいん
ですが、頑張ります。

○参加者6

そこへ交流センターも仲間に入ってほしいというのが最後の願いです。

●市長

交流センターね。交流センターの職員、入っていないんですね？今はね。

○参加者6

今ちょっとそこまではね、なかなか難しいというような話を。

●市長

分かりました。強引に言うとはれですから、少し上手く考えて、出てみたらというような感じに仕向けたと思います。

○参加者 6

その辺でよろしくをお願いします。

○参加者 2

カメラちょっとオンにできなくてすみません。ちょっと機器の都合で動かなかったです。ライドシェアについてお伺いしたいんですけど、今時間も場所も限られてると思うんですが、今後どんな方向性なのかって、コミュニティバス、タクシー、普通のバス等の分担の考え方とかどうなってるのかなって思いました。いかがでしょうか。

●市長

ありがとうございます。まず今のエリアがとても限定されてるのは、国交省から、この公共ライドシェアやっていいのは、交通空白地だけだよという、例がすごく厳しかったのでできないんですね。そんな、交通空白地って何だっていうと、タクシーを呼んでも 30 分以上来ないとかですね。そんなこと言ったらなかなか厳しいじゃないですか。というので、残念ながら、そういう規制で、今あるのは桜ニュータウンとですね、筑波山とだけなんですけれども。結果としてなかなか利用できる方が少ないという、並木は通れるようにはしてますけれども。この間国交省のですね、非常に上の方がつくば市に来て、ちょっと勘弁してくださいって話をしたらですね、少しルールが今変わって、もう少し広く指定をしていいよという、自治体単位で自治体が困ってるのであればということにはなりましたので、あとは交通事業者さんたちとの協議をきちんとしてですね。できればこれは本当に広げていきたいなと思っていまして、例えばどこのエリアかって本当にこれからですけど、例えばさっきね参加者 5 さんに話しました、荃崎の方って、牛久とのつながりがかなり多かったりするので、ライドシェア、牛久市とも一緒にやっていますので、まさに活躍の場面あるんじゃないかななんて思っています。ので、路線バスがやっぱり十分足りていないエリアに、まずは入れていくということで、タクシーとライドシェアが同じかと言われると私若干違うと思っててやっぱり、なかなかタクシーのお金をぽんと出せる方って多くないわけですよ。私も基本タクシーって、そんなに使わないですし、ただライドシェアをすることによってその料金をいくらかでも抑えることができてっていう、そういう間の、バスとタクシーの間ぐらいの基準になっていくのが望ましいんじゃない

ないかなあということは、思っています。それが、さっきも言いましたように、交通事業者の民業圧迫だということでは決してないと思っていて、もう本当にどこもタクシードライバーも、なんでしょう、本当に足りてない状況で、つくば市のバスも増やせないような状況がありますから、それを何とか、このドライバーバンクという仕組みを作りましたので活用して、広げていきたいなと思ってますので、もうちょっとう、いろんな変化が生みだせればなあと思って、粘り強くやっっていこうと思ってます。お答えになってるでしょうか。

○参加者 2

はい。ありがとうございます、よくわかりました。